

1 成果と課題

調査結果の分析や検証を踏まえ、本道の成果と課題を次のとおりまとめました。

【成果】

- 全国の平均正答率との差が小・中学校ともに改善の傾向にあります。
- 正答数の少ない児童生徒の割合が減少し、改善の傾向にあります。
- 家で学校の復習をする児童生徒の割合が、全国より高い傾向にあります。
- 国語の勉強が好き、読書が好きな児童生徒の割合が、全国より高い傾向にあります。
- 授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れる学校の割合が、全国を上回っています。
- 全国学力・学習状況調査の結果を学校全体で共有し、教育活動の改善に生かす学校の割合が、全国を上回っています。
- 国語、算数・数学の指導として家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教える学校の割合が、全国を上回っています。

【課題】

- 授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示す活動を計画的に行った学校の割合が、全国を下回っています。  P. 2
- 「主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善の取組状況」に関する質問において、学校が指導を行ったと考えていても、そのように受け取っていない児童生徒が一定割合存在する状況が見られる項目があります。  P. 3
- 家庭学習の時間が短い児童生徒の割合が、全国より高い傾向にあります。  P. 8
- テレビ等の視聴時間や携帯電話の使用時間が長いなど、望ましい生活習慣が確立していない児童生徒の割合が、全国より高い傾向にあります。  P. 11
- 「近隣等の小（中）学校と教育目標を共有する」「全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小（中）学校と成果や課題を共有する」などの小中連携の取組を行った学校の割合が、全国を下回っています。  P. 13
- 検証改善サイクルの確立に向けた取組は多くの学校で進んでいますが、教科に関する調査の結果に十分に現れていない傾向が見られます。  P. 16